

1. 研究活動

<p>学生の音楽意識Ⅰ —保育者と小学校教諭との 関わりから—</p>	<p>2012. 5. 4</p>	<p>日本保育学会 第65回大会 東京家政大学 P.546</p>	<p>音楽活動において幼保小連携の相互理解は欠かせない。幅広い年齢層の子どもの音楽活動を系統立てて導入できることは保育・教育系学生を養成するために重要なことである。今までの研究から、小学校教諭希望の学生は保育者希望の学生と比較して音楽活動を重視していないことが分かる(2010)。本研究は、複数免許資格取得を希望する学生が幼保と小学校の音楽をどのように捉えているのかを継続的に比較検討し、今後の音楽授業展開を考えていくものである。</p>
<p>幼保小の連携に即した授業 の考察 —小学校音楽科教育をにら んで—</p>	<p>2013. 3 発行</p>	<p>名古屋芸術大学研究紀要 第34巻 P.295-303</p>	<p>人間発達学部子ども発達学科は、2010年度で完成年度を迎え2年目が経過している。本学部は、他大学同系列の学部にはない芸術的環境のもとで高い音楽意識を備えた学生を養成することを目的としている中で、小学校教諭免許を取得希望の学生の殆どが幼稚園教諭や保育士資格を同時に取得希望している。「子どもの発達を踏まえて乳幼児期から児童期にかけての教育を理解する」という幼保小連携の相互理解に、音楽活動は大きな存在を示しており欠くことができない。幅広い年齢層の子どもの音楽活動を系統立てて導入することは保育・教育系学生に重要なことである。</p>

			本研究は、幼稚園教育要領と保育所保育指針の音楽リズムや表現活動領域と小学校学習指導要領音楽の共通項目に着目し、音楽の指導技術や姿勢に優れた学生を養成することに役立つ。複数免許資格取得を希望する学生が幼稚園・保育所と小学校の音楽をどのように捉えているのか比較検討し、今後の音楽科指導法の授業展開を考えていくものである。本稿は日本保育学会第64回大会で発表したものをさらに内容を深めたものである。
「春を呼ぶ文化芸術フェスティバル」教員演奏	2013. 2. 16	名古屋芸術大学東キャンパス3号館音楽ホール	ベートーベン作曲・ピアノソナタ第23番「熱情」第三章を演奏

## 2. 教育活動（教育実践上の主な業績）

大学院授業担当 有 無

授業科目 音楽環境デザイン		
◆前期 <input type="checkbox"/> 後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
絵本の読み聞かせ時に使用する効果音やバックミュージックをコンピュータ音楽ソフト Protools 及び XTREME・FX を活用し、作詞作曲を学生自身の感性に任せて制作させた。「春を呼ぶ文化芸術交流祭」で学生の作品を大型プロジェクターを使用し、「ハグくまさん」「すてきなすてきなアップルパイ」を発表させた。		
授業科目 音楽科指導法		
<input type="checkbox"/> 前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
「春を呼ぶ芸術フェスティバル」で源田俊一郎編曲・「混声合唱のための唱歌メドレーふるさとの四季」及び、坂本浩美作曲「旅立ちの日に」を履修学生に合唱を経験させ、小学校音楽科指導の実践指導への経験とさせた。		

## 3. 学会等および社会における主な活動

全国大学音楽教育学会	2002～現在に至る	会員
日本保育学会	1998～現在に至る	会員
日本音楽教育学会	2009～現在に至る	会員
全国保育士養成協議会	2008～現在に至る	中部ブロック会計監査
愛知県現任保育士研修運営協議会	2010～現在に至る	常任委員